

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572210110		
法人名	有限会社 湯の里		
事業所名	グループ事業所 茜		
所在地	秋田県山本郡森岳字街道東222番地6		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成24年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・住宅地に立地し、自己のライフスタイルを生かせるように花壇や畑を設けており、畑では野菜の植え付けから収穫の楽しみを工夫している。</p> <p>・敷地内に果樹(梅、栗、柿、無花果)があり、事業所合同で収穫を楽しみ交流を図っている。</p> <p>・積極的に外出をとりいれており、ドライブ等では季節を感じ、お菓子や買い物を楽しみ、利用者さんと一緒に触れ合うことで今までの暮らしぶりを知ることができ、良い関係を築いている。</p> <p>・当事業所で開催するお花見、大運動会、なべっこ会等は地域の方やボランティア、家族の人に参加して頂き交流を図っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>道路に面したホールには大きな窓があり、通学する小学生に手を振ったり事業所の果樹を見渡せる他、裏の窓からはじゅんさいの池を見ることが出来、豊かな自然を感じられる事業所である。企業理念や事業所独自のモットー「楽しく、笑顔で、生き生きと」をもとに、管理者、職員で話し合い、2ヶ月ごとの目標を決めて取り組んでいる。運営推進会議には、資料に写真を取り入れる等、情報の伝え方を工夫しており、会議の議事録、委員の意見等も適切にまとめられており、次に繋がる会議となっている。法人代表は職員の育成に熱心であり、外部への研修の機会も多く、研修内容も共有されている。これらのことが、利用者への対応の良さにつながっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループ事業所に馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念は玄関と事務所に掲示し、いつでも確認できるようにしている。ホーム独自の目標も掲げて職員一同日々取り組んでいる。	毎月の職員会議で、企業理念や事業所のモットーについて話し合い、2ヶ月ごとの目標を設定している。目標は、「体調管理」「外出しましょう」等と身近なものであり、都度、反省等が行われ次の目標につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの畑は、地域の方にも協力して頂き、収穫時にはお裾分けをし喜ばれた。避難訓練でも地域の方に参加頂いた。地元の祭りでは、ホーム玄関前に神輿や子供たちの踊りが披露され、地域との交流を図っている。	近隣住民が事業所の畑を耕してくれたり、事業所で収穫したものを、お裾分けしたりして交流している。地域の祭りでは、事業所前で子供の踊りが披露されたり、地域の方が見学に来るなど、触れ合いの機会を作っている。事業所の行事へのボランティアの協力もある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運動会、カラオケ大会、なべっこ会では、地域の方もボランティアとして参加くださる。運営推進会議に、認知症についての講話をして頂いた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。利用状況、行事、活動状況の報告をし助言・要望を伺いサービスの質の向上に努めている。	会議のメンバーは多岐にわたっている。資料に写真を取り入れる等、わかりやすい工夫している他、委員からの助言や要望は、議事録に明らかに示されており、次につながる会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接訪問したり、電話、Eメールで情報を伝え協力関係を築いている。	実地指導を受け、具体的な指導を仰いでいる。町からの情報に対し、気軽に相談できる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が禁止となる行為を理解している。玄関施錠も夜間以外は施錠はしていない。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて運営規程等に明記されている。職員は禁止となる行為について理解しており、日々のケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会に学ぶ機会があり、虐待が見過ごされることのないよう注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にも参加して学ぶ機会を設けている。地域福祉権利擁護事業を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定の際は十分な説明を行い理解・納得をいただいたうえで捺印を押していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内数箇所に「意見箱」を設け意見等があった場合は職員間で共有し業務に反映させている。苦情についても家族が納得のいく解決に努めている。	苦情受付担当者に家族の代表も入り、意見が反映しやすい体制となっている。家族の面会が多く、その際に意見等を聞いている。毎月の請求書に便りを入れたり、遠方の家族には電話で近況を伝える等工夫している。	請求書に同封する便りに利用者の近況を書き添えたり、事業所便り等を同封することなどの工夫により、家族との連携をさらに密にしていけることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員の意見や提案が管理者会議で報告され、代表者は真摯に受け止め運営に反映されている。	職員会議や申し送り時に、気軽に意見が出せる環境となっている。日頃から出された意見等は、職員会議や管理者会議で話し合われている。利用者に合わせて椅子を取り替えたりする等、意見が反映されており、改善に結びついている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の努力や実績、勤務状況を把握し、職員個々が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年度研修計画を立て、事業所内外の研修に参加し職員のスキルアップに繋げている。資格取得についても積極的に進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に加入しており、代表者・管理者・職員が研修に参加し、交流を深めネットワークづくりをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は利用に至るまでに、本人の困っている事、不安な事、要望等を聴き安心していただけるよう職員全員で努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談者や家族に施設を見学していただき、安心して利用できるよう努めている。困っている事、不安な事や要望をよく聴き安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの出来ること、したい事を生活の中に見つけ一緒に行なっている。暮らしを共にする者同士信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には行事の際は参加の願いをして、いつでもホームに立ち寄れる雰囲気づくりをしている。本人、家族、職員と一緒にお茶を頂き本人を支えていく関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで利用していた行きつけのお店で買物をしたり、理美容院に出掛けている。馴染みの関係が途切れないよう支援している。	事業所では2ヶ月毎に目標を決めている。「外に出ましよう。買い物に出かけましよう。」と掲げたこともあり、衣類の購入や理美容院の利用等、利用者の要望に応じてながら、馴染みの関係を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう常に目配りや気配りをし、会話に努めている。日中ひとりで部屋に居ることのないようレクリエーションや本人の出来ることを行うように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、施設の行事に招待し、必要とされる時は相談に応じそれまでの関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを把握し、ホーム生活の中に本人の希望や意向を取り入れていくよう努めている。	その方を知り、心地よく過ごしてもらうことを念頭に、傾聴に努め、日常の会話や生活の一つ一つの動作等から思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人が使い慣れた食器・衣類・身の回りの物を持って来て頂き、それまでの生活環境・生きがい維持できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの過ごし方や心身状態の把握に努め調理下準備、洗濯物たたみ、花壇や畑の手入れ等本人の有する能力が発揮できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望を聴き、担当者会議を開き援助計画を作成、月一回のケアカンファレンス、3月に1回のモニタリングを行い現状に即した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスを毎月行い、3か月毎にモニタリング、6か月毎に見直しを行っている。介護計画は、利用者本人や家族の意見等その他、担当者だけではなく全職員の意見や気づきが反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容は個別に記録、申し送り等で情報を共有している。ケアカンファレンスを開催し実践や介護計画の見直しに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意思や必要に応じて、地域のイベント、お祭り、小学校の運動会等に参加している。ホームの運動会ではボランティアの受入をしており、利用者が安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望や、家族の希望を大切に受診している。かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局と事業所の関係は良好で、適切な医療を受けられるよう支援している。	受診には職員が付き添い、結果はすぐに家族へ報告している。検査などの場合は、家族にも同席してもらっている。月2回の訪問看護があり、利用者の状態を把握してもらい健康面の安心につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に利用者の情報や気づきに付いて相談し日常の健康管理についてアドバイスをいただき、適切な受診や医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連絡を密にし、情報交換に応じており、安心して治療できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からホームで、出来る事を利用者や家族と話し合い理解していただいている、ホームでは出来ることを支援している。	看取りに関する指針があり、全職員が理解している。今までに看取りの経験はないが、利用者や家族の希望に応じ、医師や看護師の協力を得ながら対応していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え救命講習を受講している。全員応急手当や初期対応ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、防火訓練を実施しており、利用者がスムーズに避難できるよう心がけている。また、地域の方の協力もいただいている。	年2回、消防署の立会いで避難訓練を実施し、訓練には地域住民の協力も得ている。全職員が救急救命講習を受講済みである。また、非常時に備え、連絡体制を確立し、備蓄や自家発電機を設置している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの支援を心がけ、利用者の人格を尊重しプライバシーに配慮した言葉かけ、対応をしている。	管理者は職員に自分が言われて嫌なことは言わないようにと指導しているほか、職員は、恥ずかしいという気持ちに留意しながら、特にトイレや入浴時はさりげない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き入れ、日常生活の中で表現でき、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ生活を保ち、希望を取り入れた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	季節に合わせた身だしなみやおしゃれができるよう支援している。利用者が馴染みの、理容・美容院などを利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で採れた野菜を活かした献立や嗜好に合わせて一人ひとりメニューを替えている。また、調理の準備・食事・片付けを職員と一緒にしている。	日常の会話の中で、利用者から聞かれる食事の希望をメニューに取り入れている他、利用者の嗜好に合わせて柔軟に対応している。事業所の畑で収穫された野菜や果物を食事へ取り入れ、会話も弾みながらの楽しい食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握している、利用者の状態や力、習慣に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。援助の必要な利用者には職員と一緒に、義歯の消毒は専用の薬剤を使って週3回洗浄し清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗や不安なく排泄できるよう、プライバシーに配慮し自立に向けた支援に努めている。	トイレに行きたがらない利用者には、歩行訓練の際に「通りだから寄りましょう」等声をかけ誘導するなどして工夫している。排泄パターンの把握に努めており、利用開始時はパットを使用していたが布パンツに改善したケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防する為に食事の工夫や運動、水分補給に努めている。解消されない場合は、医師に相談し薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日バイタル測定を行い健康状態を把握し利用者の希望にあわせ入浴を行っている。入浴を楽しめるように入浴剤を入れ替え工夫をしている。	入浴剤を入れ入浴を楽しんでもらっている。利用者の希望に応じながら、声掛けなどを工夫し、入浴できるようにしている。日曜日などの入浴のない日は、清拭を行い清潔に留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるよう日中の過ごし方の工夫をしている。休息も安心して眠れる支援をしている。夜間眠れない方は医師に相談し処方してもらい服薬をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ケースには薬名、効能について記載している。薬ファイルには一人ひとりの薬名、効能、働き、副作用について記載されており、職員は薬の目的・副作用等について理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の思いや希望を尊重し、できる範囲での役割を持ってもらい、利用者の生活歴を活かした支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	利用者の希望に沿って近隣の散歩やドライブは日常的に行っており、理美容院、買い物等の外出も支援している。花見、運動会、カラオケ、たんぼ会等は合同行事で地域、家族の方に協力して頂き楽しんでいる。	利用者から外出の要望が多く、日曜日等にドライブに出かけている他、外に出る行事も多く取り入れている。家が心配と話す利用者に対し、すぐに職員と車で家へ行き、安心につなげる等、柔軟に対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の了解を得て、負担にならない程度のお金を財布に入れ所持している。また管理のできない利用者には、買い物時お金を渡して払ってもらうなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話が入ったり、本人が電話をかけたいとの希望があれば支援している。手紙や葉書は本人から出すことはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の空間は、木をふんだんに使用した落ち着いた雰囲気となっている。ホールにはソファを設置しておりゆっくり休めるよう工夫され、廊下には利用者の作品、行事の写真を貼り居心地良く過せる工夫をしている。室内の温度を一定に保つよう整備されている。	事業所内は木の風合いが豊かで廊下には天窓もあり、明るく温かみのある造りとなっている。道路に面したホールの窓は大きく、ウッドデッキがつながっており、見晴らしもよい。廊下には、貼り絵や行事の写真等が飾られたり、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ホールにはソファが設置されており、利用者同士または職員と一緒にくつろぎながら過ごす事ができる。また、思い思いに過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの食器・衣類等身の回りの物を持って来て頂き、本人が居心地良く過せるように工夫している。	家族が居室に泊まることもあり、十分なスペースがある。また、整理棚が作りつけられており、片付けがしやすいように配慮されている。布団や食器等使い慣れたものを持参してもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、洗面所が分からなくなる利用者のため、場所の表示をし混乱や失敗のないよう声かけ見守りして、安全に自立した生活が送れるよう工夫をしている。		